

区 分	専門科目－国際コミュニケーション科目	担当教員	伊藤泰郎			
授業科目	国際社会論基礎A					
英 訳	International Society-Basic A					
配当年次	1年次	前期	必選別	選択	単位数	2単位
【授業の概要】						
ABを通じて日本国内の民族的マイノリティを上げる。Aでは外国人の法的地位、ニューカマーの来住過程、労働や生活、教育などについて講述する。						
【授業の目的】						
国際社会論基礎では、日本国内の具体的な事例をもとに、「民族」や「移民」について考えるために必要な基礎的な知識を習得することが目的である。						
【到達目標】						
日本国内における民族的マイノリティの状況について理解を深めることを目標とする。						
【準備学習(予習・復習)】						
<ul style="list-style-type: none"> ・ 前回の授業内容をよく理解しておくこと、不明点は質問すること ・ ノート・配付プリントを整理し内容を理解すること 						
【授業計画】						
第 1回 インTRODクシヨN						
第 2回 日本に住む外国人とニューカマーの来住						
第 3回 在留資格						
第 4回 国籍						
第 5回 エスニックコミュニティの形成						
第 6回 地域社会と外国人						
第 7回 日本から海外への移民 (1)						
第 8回 日本から海外への移民 (2)						
第 9回 国際結婚と外国人女性						
第10回 外国にルーツを持つ子どもたちの教育 (1)						
第11回 外国にルーツを持つ子どもたちの教育 (2)						
第12回 災害と外国人						
第13回 技能実習生の受け入れ						
第14回 看護師・介護福祉士の受け入れ						
第15回 まとめ						
【教科書】						
教科書は使用せず、授業の際に適宜資料を配付する。						
【参考書】						
授業の際に適宜紹介する。						
【成績評価基準】						
授業中の小レポート (30%) と学期末のレポート (70%) で成績を評価する。						
【メッセージ】						
まず知ること、そして自分もそれに関係する者として考えることが重要である。						

区 分	専門科目－国際コミュニケーション科目	担当教員	伊藤泰郎			
授業科目	国際社会論基礎B					
英 訳	International Society-Basic B					
配当年次	1年次	後期	必選別	選択	単位数	2単位
【授業の概要】 ABを通じて日本国内の民族的マイノリティを上げる。Bでは難民、中国帰国者、アメラジアン、アイヌ民族について講述する。						
【授業の目的】 国際社会論基礎では、日本国内の具体的な事例をもとに、「民族」や「移民」について考えるために必要な基礎的な知識を習得することが目的である。						
【到達目標】 日本国内における民族的マイノリティの状況について理解を深めることを目標とする。						
【準備学習(予習・復習)】 ・前回の授業内容をよく理解しておくこと、不明点は質問すること ・ノート・配付プリントを整理し内容を理解すること						
【授業計画】 第 1回 イン트로ダクション 第 2回 難民 (1) : インドシナ難民の受け入れ 第 3回 難民 (2) : 国際機関と難民法制 第 4回 難民 (3) : 難民の現状と支援 第 5回 難民 (4) : 第三国定住と日本の受け入れの現状 第 6回 中国帰国者 (1) : 中国東北部への移住 第 7回 中国帰国者 (2) : 残留婦人・孤児の帰国 第 8回 中国帰国者 (3) : 現状と課題 第 9回 アメラジアン 第10回 アイヌ民族 (1) : 伝統文化 第11回 アイヌ民族 (2) : 文化の継承と創造 第12回 アイヌ民族 (3) : 近代以前の歴史 第13回 アイヌ民族 (4) : 近代以降の歴史と現状 第14回 国際社会と先住民族 第15回 まとめ						
【教科書】 教科書は使用せず、授業の際に適宜資料を配付する。						
【参考書】 授業の際に適宜紹介する。						
【成績評価基準】 授業中の小レポート (30%) と学期末のレポート (70%) で成績を評価する。						
【メッセージ】 まず知ること、そして自分もそれに関係する者として考えることが重要である。						

区 分	専門科目－国際コミュニケーション科目	担当教員	伊藤泰郎			
授業科目	人権と社会A					
英 訳	Human Rights and Society A					
配当年次	1年次	前期	必選別	選択	単位数	2単位
【授業の概要】 Aでは在日コリアンを中心に取り上げる。渡日や日本への定住の歴史、広島での被爆、生活や差別の状況、権利の保障などについて講述するとともに、在日コリアンの方の講演やフィールドワークも予定している。また、ハンセン病元患者に対する差別についても取り上げる。						
【授業の目的】 日本社会の具体的な事例に関する基本的な知識を習得するとともに、それをベースとして人権について考察することを目的とする。						
【到達目標】 社会の一員として、また自分の問題として、履修者それぞれが人権について考える核になるものを作り上げることを目標にしたい。						
【準備学習(予習・復習)】 ・前回の授業内容をよく理解しておくこと、不明点は質問すること ・ノート・配付プリントを整理し内容を理解すること						
【授業計画】 第 1回 インTRODクシヨN 第 2回 渡日の歴史(1)：日本の植民地支配 第 3回 渡日の歴史(2)：日本への渡航過程 第 4回 軍都廣島の形成 第 5回 渡日の歴史(3)：戦時中の強制動員 第 6回 朝鮮人被爆者 第 7回 戦後の生活と差別の状況(1) 第 8回 戦後の生活と差別の状況(2) 第 9回 在日外国人と社会保障 第10回 在日外国人の参政権と公務就任権 第11回 民族教育と教育の権利 第12回 フィールドワークと講演 第13回 ハンセン病元患者に対する差別(1) 第14回 ハンセン病元患者に対する差別(2) 第15回 まとめ						
【教科書】 教科書は使用せず、授業の際に適宜資料を配付する。						
【参考書】 授業の際に適宜紹介する。						
【成績評価基準】 授業中の小レポート(30%)と学期末のレポート(70%)で成績を評価する。						
【メッセージ】 知識の習得は必要なことであるが、それを自分なりにとらえ直すことが大切である。						

区 分	専門科目－国際コミュニケーション科目	担当教員	伊藤泰郎			
授業科目	人権と社会B					
英 訳	Human Rights and Society B					
配当年次	1年次	後期	必選別	選択	単位数	2単位
【授業の概要】 Bでは被差別部落を中心に取り上げる。まず、被差別部落の現状と差別の実態について講述した後、被差別部落の歴史について講述する。また、ホームレスの人々、HIV陽性者・AIDS患者、セクシュアルマイノリティについても取り上げたい。						
【授業の目的】 日本社会の具体的な事例に関する基本的な知識を習得するとともに、それをベースとして人権について考察することを目的とする。						
【到達目標】 社会の一員として、また自分の問題として、履修者それぞれが人権について考える核になるものを作り上げることが目標にしたい。						
【準備学習(予習・復習)】 ・前回の授業内容をよく理解しておくこと、不明点は質問すること ・ノート・配付プリントを整理し内容を理解すること						
【授業計画】 第 1回 インTRODクシヨN 第 2回 被差別部落の現状と差別 第 3回 日本の被差別身分(1)：中世まで 第 4回 日本の被差別身分(2)：江戸時代 第 5回 被差別部落と近代(1)：明治以降の状況 第 6回 被差別部落と近代(2)：戦前の運動 第 7回 戦後の運動と同和対策事業 第 8回 被差別部落のこれから 第 9回 HIV陽性者・AIDS患者(1) 第10回 HIV陽性者・AIDS患者(2) 第11回 ホームレスの人々の現状と支援活動 第12回 セクシュアルマイノリティ(1) 第13回 セクシュアルマイノリティ(2) 第14回 セクシュアルマイノリティ(3) 第15回 まとめ						
【教科書】 教科書は使用せず、授業の際に適宜資料を配付する。						
【参考書】 授業の際に適宜紹介する。						
【成績評価基準】 授業中の小レポート(30%)と学期末のレポート(70%)で成績を評価する。						
【メッセージ】 知識の習得は必要なことであるが、それを自分なりにとらえ直すことが大切である。						

区 分	専門科目－国際コミュニケーション科目	担当教員	崔博憲			
授業科目	国際社会学A					
英 訳	Global Sociology A					
配当年次	2年次 前期	必選別	選択	単位数	2単位	
【授業の概要】						
近代以降、国民国家と資本主義が世界の在り方に決定的な影響を与えている点をふまえたうえで、「西洋と東洋」「日本とアジア」「先進国と途上国」の関係性や文化、民族、宗教といった概念について考察する。						
【授業の目的】						
近代以降の世界構造を理解するための基本的な枠組みや概念を学び、国際社会の現状を多面的・多層的視座から考えることを目的とする。						
【到達目標】						
授業を通じて、現代世界の成り立ちを理解し、国際社会やグローバル化を考える基礎的な力をつける。						
【準備学習(予習・復習)】						
予習：事前配布された資料は必ず読んでおくこと。 復習：授業の要点をまとめ、不明な点があれば次の授業で質問できるようにしておくこと。						
【授業計画】						
第 1回 インTRODクシヨン						
第 2回 わたしたちは世界をどのように認識しているのか?①						
第 3回 わたしたちは世界をどのように認識しているのか?②						
第 4回 国民国家論①						
第 5回 国民国家論②						
第 6回 世界システム論						
第 7回 オリエンタリズム①						
第 8回 オリエンタリズム②						
第 9回 中間まとめ						
第10回 現代世界と文化						
第11回 現代世界と民族						
第12回 現代世界と宗教						
第13回 現代世界における「われわれ」と「かれら」①						
第14回 現代世界における「われわれ」と「かれら」②						
第15回 まとめ						
【教科書】						
特に指定しない。授業で使用する教材となる資料やテキストは配布する。						
【参考書】						
適宜、紹介する。						
【成績評価基準】						
小論文(40%) 課題提出(30%)、授業への取り組み(30%)						
【メッセージ】						
日常生活と世界をつなぐ視点を大事にしてください。						

区 分	専門科目－国際コミュニケーション科目	担当教員	崔博憲			
授業科目	国際社会学B					
英 訳	Global Sociology B					
配当年次	2年次	後期	必選別	選択	単位数	2単位
【授業の概要】 グローバル化とは本質的に何を意味しているかを学び、それによって世界がどう変化しているかを考える。主にアジアに焦点をあて、グローバル化の具体的な問題や人びとが直面している変化をとりあげる。						
【授業の目的】 現代世界において急速に進むグローバル化を具体的に理解し、それが引き起こす問題（と可能性）を多面的・多層的視座から考えることを目的とする。						
【到達目標】 授業を通じて、現代世界の変化の意味を考え、国際化やグローバル化を考える基礎的な力をつける。						
【準備学習(予習・復習)】 予習：事前配布された資料は必ず読んでおくこと。 復習：授業の要点をまとめ、不明な点があれば次の授業で質問できるようにしておくこと。						
【授業計画】 第 1 回 インTRODクシヨN 第 2 回 グローバル化とは何か 第 3 回 グローバル化に覆われる世界① 第 4 回 グローバル化が浸透する世界② 第 5 回 グローバル化と格差 第 6 回 グローバル化と移動 第 7 回 均質化／多様化 第 8 回 中間まとめ 第 9 回 グローバル化のなかのアジア① 第 1 0 回 グローバル化のなかのアジア② 第 1 1 回 グローバル化とマイノリティ 第 1 2 回 グローバル化の受容／抵抗 第 1 3 回 グローバル化と日本社会 第 1 4 回 グローバル化と日本社会 第 1 5 回 まとめ						
【教科書】 特に指定しない。授業で使用する教材となる資料やテキストは配布する。						
【参考書】 適宜、紹介する。						
【成績評価基準】 小論文（40%）課題提出(30%)、授業への取り組み(30%)						
【メッセージ】 日常生活と世界をつなぐ視点を大事にしてください。						

区 分	専門科目－国際コミュニケーション科目	担当教員	金 廷祐			
授業科目	韓国・朝鮮社会論A					
英 訳	Studies on Korean Society A					
配当年次	3年次 前記	必選別	選択	単位数	2単位	
【授業の概要】 韓国・朝鮮社会論Aでは、朝鮮半島をめぐる対立構造の形成と変容を、南北それぞれ国内の視点から、考察していく。大戦後始まる冷戦構造とその冷戦構造の変化に連動していく南北両国の対応を、国内状況の変化に焦点を合わせて比較分析を行う。						
【授業の目的】 1991年に冷戦が終わりを告げてから四半世紀が過ぎ、様々な変化を重ねている国際関係とは違って、朝鮮半島を取り巻く情勢は依然として混迷の度合いを深めている。この授業の目的は、朝鮮半島における対立構造の形成と固定化、そしてその変容を朝鮮半島内部の視点から分析し、朝鮮半島問題を理解するうえでの基本的な視座を習得することにある。						
【到達目標】 この授業の到達目標として想定していることは下記のとおりである。 ・戦後朝鮮半島において構築された冷戦構造の特性を時系列に分析して、当該地域の国際関係の生成を理解する。 ・当該地域の国内政治と国際関係との関係を分析して、東北アジア地域における国際関係の輪郭を理解する。 ・南北朝鮮社会の変容について学び、朝鮮半島をめぐるこれからの展望を他者に説明できるようにする。						
【準備学習(予習・復習)】 (復習) 配付プリントを整理し前回の授業内容をよく理解しておくこと、不明点は質問としてまとめること (予習) 次回の項を読んでおくこと、不明点をチェックしておくこと						
【授業計画】 第 1回 はじめに…近くて遠い朝鮮半島について 第 2回 「解放」から分断まで①…独立前から始まっていた国内外・左右の政治運動 第 3回 「解放」から分断まで②…冷戦の始まりと朝鮮半島 第 4回 「解放」から分断まで③…1948年二つの国家の成立と分断の固定化 第 5回 朝鮮戦争 第 6回 韓国の「戦後」①…李承晩長期政権と3・15、4・19 第 7回 韓国の「戦後」②…60年代の民主主義（議院内閣制の試み） 第 8回 韓国の「戦後」③…朴正熙軍事政権の成立と民政履行、そしてベトナム参戦 第 9回 韓国の「戦後」④…朴正熙長期政権と経済発展 第10回 北朝鮮の戦後①…金日成中心の権力構造確立と社会主義的経済改造 第11回 北朝鮮の戦後②…70年前半の経済悪化と金正日後継体制の構築 第12回 南北関係①…1950～60年代の統一政策：「吸収統一」か「赤化統一」か 第13回 南北関係②…70年代前半の緊張緩和の原因と結果：7・4南北共同声明 第14回 南北関係③…80年代の経済重視政策とその明暗：朴正熙死後と金日成以降 第15回 「まとめ」						
【教科書】 特に指定しない。						
【参考書】 参考となる文献、資料等は、授業の中で紹介していくこととする。						
【成績評価基準】 授業に対する姿勢・課題解決度30%、小テスト20%、期末試験50%で評価する。						
【メッセージ】 授業では多くの写真や映像資料などを使用し、朝鮮半島の戦後史理解に努める。授業に参加する学生たちも、新聞の国際面やニュースなどから海外の情報を得ておくことをお勧めする。						

区 分	専門科目－国際コミュニケーション科目	担当教員	金 廷祐			
授業科目	韓国・朝鮮社会論B					
英 訳	Studies on Korean Society B					
配当年次	3年次 後期	必選別	選択	単位数	2単位	
【授業の概要】 韓国・朝鮮社会論Bでは、朝鮮半島の緊張状態を戦後国際情勢の変化に焦点を合わせて捉え、冷戦の変容と朝鮮半島情勢との連動性を分析していく。そして、朝鮮半島をめぐる国際情勢の変動がもたらす様々な影響を日本の視点から考察する。						
【授業の目的】 この授業は、朝鮮半島情勢を国内状況分析から説明した前期授業をふまえながらも独立して、その変容を国際情勢との連動の中から考察する。また、日本と朝鮮半島との不可分の関係もこの授業を通して理解し、日本が朝鮮半島をめぐって自らをどう捉え、どう位置づけるかを考える。						
【到達目標】 この授業の到達目標は下記のとおりである。 ・朝鮮半島で起きた様々な出来事を時系列に学習して、当該地域の国際関係を理解できるようにする。 ・当該地域をめぐる国際関係に関する基礎知識に基づいて、自らの展望を他者に説明できるようになる ・日本の日常生活で毎日見られ、感じられる様々な朝鮮半島を、他者に対して論理的に説明できるようにする。						
【準備学習(予習・復習)】 (復習) 配付プリントを整理し前回の授業内容をよく理解しておくこと、不明点は質問としてまとめること (予習) 次回の項を読んでおくこと、不明点をチェックしておくこと						
【授業計画】 第 1 回 はじめに…冷戦体制と朝鮮半島における近代国民国家の建設 第 2 回 冷戦の発生期と独立運動 第 3 回 冷戦の高揚期と朝鮮戦争 第 4 回 スターリンの死と緊張緩和、そして朝鮮半島における体制固め 第 5 回 欧米のデタントとアジアの冷戦…ベトナム戦争 第 6 回 アメリカの対外戦略変更と朝鮮半島…チャイナ・カードと7・4南北共同声明 第 7 回 新冷戦期と朝鮮半島…両陣営の後継者たち 第 8 回 冷戦の終焉と朝鮮半島①…「北方外交」と「7・7宣言」 第 9 回 冷戦の終焉と朝鮮半島②…韓国の民主化と南北基本合意書 第10回 冷戦の終焉と朝鮮半島③…「北朝鮮問題」の浮上と94年危機 第11回 冷戦の終焉と朝鮮半島④…「包容政策」と南北頂上会談、「6・15南北共同宣言」 第12回 「北朝鮮問題」の再浮上と6ヶ国会談 第13回 朝鮮半島問題と日本① 第14回 朝鮮半島問題と日本② 第15回 「まとめ」						
【教科書】 特に指定しない。						
【参考書】 参考となる文献は、授業の中で紹介または配布していく。						
【成績評価基準】 授業に対する姿勢・課題解決度30%、小テスト20%、期末試験50%で評価する						
【メッセージ】 授業では朝鮮半島に関連する多くの写真や映像資料などを使用し、朝鮮半島の戦後史理解を深める。						

区 分	専門科目－国際コミュニケーション科目	担当教員	古関 喜之			
授業科目	中国社会論 A					
英 訳	Chinese Society A					
配当年次	3年次	前期	必選別	選択	単位数	2単位
【授業の概要】 変化の激しい中国社会および台湾社会について、下記の授業計画に基づき講義を中心に授業を展開する。また最新の中国・台湾事情を紹介するため、中国語で書かれた関連記事を紹介する。						
【授業の目的】 中国および台湾の地理的位置、自然環境、民族構成についての理解を深めることを目指す。						
【到達目標】 変化の激しい中国社会および台湾社会について理解を深め、この講義を通じて、中国および台湾社会を自力で理解していく力をつけることを目標とする。						
【準備学習(予習・復習)】 ノートおよび配付プリントを整理し内容を理解すること。						
【授業計画】 第 1回 ガイダンス 第 2回 中国の地勢① 第 3回 中国の地勢② 第 4回 中国の気候① 第 5回 中国の気候② 第 6回 中国の土地利用① 第 7回 中国の土地利用② 第 8回 台湾の範囲 第 9回 地理的位置と自然環境 第10回 地理的位置と人文環境 第11回 地形① 第12回 地形② 第13回 気候 第14回 台湾の民族構成 第15回 前期のまとめ						
【教科書】 特に指定しない。プリントを適宜配布する。						
【参考書】 講義中、適宜紹介する。						
【成績評価基準】 レポート (80%)、授業中の小レポート・小テスト (20%) で評価する。						
【メッセージ】 中国語に興味や関心があることが望ましい。						

区 分	専門科目－国際コミュニケーション科目	担当教員	古関 喜之			
授業科目	中国社会論 B					
英 訳	Chinese Society B					
配当年次	3年次	後期	必選別	選択	単位数	2単位
【授業の概要】 変化の激しい中国社会および台湾社会について、下記の授業計画に基づき講義を中心に授業を展開する。また最新の中国・台湾事情を紹介するため、中国語で書かれた関連記事を紹介する。						
【授業の目的】 中国および台湾の人口問題、社会構造、農業についての理解を深めることを目指す。						
【到達目標】 変化の激しい中国社会および台湾社会について理解を深め、この講義を通じて、中国および台湾社会を自力で理解していく力をつけることを目標とする。						
【準備学習(予習・復習)】 ノートおよび配付プリントを整理し内容を理解すること。						
【授業計画】 第 1回 ガイダンス 第 2回 人口問題① 第 3回 人口問題② 第 4回 民族問題 第 5回 社会構造① 第 6回 社会構造② 第 7回 台湾の人口とその構成① 第 8回 台湾の人口とその構成② 第 9回 日本の統治政策 第 10回 基礎建設 第 11回 農業の近代化 第 12回 パナナ産地 第 13回 マンゴー産地 第 14回 寄接ぎナシ産地 第 15回 後期のまとめ						
【教科書】 特に指定しない。プリントを適宜配布する。						
【参考書】 講義中、適宜紹介する。						
【成績評価基準】 レポート (80%)、授業中の小レポート・小テスト (20%) で評価する。						
【メッセージ】 中国語に興味や関心があることが望ましい。						

区 分	専門科目－国際コミュニケーション科目	担当教員	崔博憲			
授業科目	地域国際化論A					
英 訳	Regional Globalization A					
配当年次	3 年次	前 期	必選別	選 択	単位数	3 単位
【授業の概要】						
資料や文献から戦前や戦後に日本が行った異民族・外国人政策を学ぶ。また、そうした歴史を物語る県内の史的跡地や当時を知る人物を訪ね、日本社会の多文化・多民族の歴史について具体的な認識を深める。						
【授業の目的】						
戦前から戦後に至るまでの日本の異民族・外国人政策の歴史と、広島を中心に当時の日本における多文化・多民族状況について理解することを目的とする。						
【到達目標】						
授業を通じて、地域社会の多様性や国際化の歴史を理解することで、生活世界のグローバル化に向き合うための基礎的な力を育む。						
【準備学習(予習・復習)】						
予習：事前配布された資料は必ず読んでおくこと。 復習：授業の要点をまとめ、不明な点があれば次の授業で質問できるようにしておくこと。						
【授業計画】						
第 1 回 インTRODクシヨン						
第 2 回 国際化と国民化①						
第 3 回 国際化と国民化②						
第 4 回 帝国日本の異民族政策①						
第 5 回 戦後日本の外国人政策②						
第 6 回 戦後日本の外国人政策①						
第 7 回 戦後日本の外国人政策②						
第 8 回 中間まとめ						
第 9 回 戦前・戦後における広島が多様性①						
第 1 0 回 戦前・戦後における広島が多様性②						
第 1 1 回 戦前・戦後における広島が多様性③						
第 1 2 回 学外学習①						
第 1 3 回 学外学習②						
第 1 4 回 学外学習の成果発表						
第 1 5 回 まとめ						
【教科書】						
特に指定しない。授業で使用する教材となる資料やテキストは配布する。						
【参考書】						
適宜、紹介する。						
【成績評価基準】						
小論文(40%) 課題提出(30%)、授業への取り組み(30%)						
【メッセージ】						
自分の暮らす地域社会の変化とグローバル化を結ぶ視点を大切にしてください。						

区 分	専門科目－国際コミュニケーション科目	担当教員	崔博憲			
授業科目	地域国際化論B					
英 訳	Regional Globalization B					
配当年次	3 年次 後 期	必選別	選 択	単位数	2 単 位	
【授業の概要】						
文献や資料から 1980 年代以降の在日外国人の動態変化を把握したうえで、広島を中心に日本社会では、そうした変化がどのような事態や問題を生み出しているのかを具体的な場所や人物を通じて理解する。						
【授業の目的】						
近年の日本社会の国際化・グローバル化がどのように展開しているのかを具体的に理解することで、地域社会の変化とその意味を実践的に考える力を養うことを目的とする。						
【到達目標】						
授業を通じて、地域社会において具体的に進むグローバル化の実態を理解することで、その変化に向き合うための基礎的な力を育む。						
【準備学習(予習・復習)】						
予習：事前配布された資料は必ず読んでおくこと。 復習：授業の要点をまとめ、不明な点があれば次の授業で質問できるようにしておくこと。						
【授業計画】						
第 1 回 インTRODクシヨN						
第 2 回 在日外国人の動向① (1980S～)						
第 3 回 在日外国人の動向② (1990S～)						
第 4 回 在日外国人の動向③ (2000S～)						
第 5 回 グローバル化と地域社会①						
第 6 回 グローバル化と地域社会②						
第 7 回 広島で暮らし働く外国人①						
第 8 回 広島で暮らし働く外国人②						
第 9 回 中間まとめ						
第 1 0 回 外国人の労働・暮らしを支える①						
第 1 1 回 外国人の労働・暮らしを支える②						
第 1 2 回 学外学習①						
第 1 3 回 学外学習②						
第 1 4 回 学外学習の成果報告						
第 1 5 回 まとめ						
【教科書】						
特に指定しない。授業で使用する教材となる資料やテキストは配布する。						
【参考書】						
適宜、紹介する。						
【成績評価基準】						
小論文 (40%) 課題提出(30%)、授業への取り組み(30%)						
【メッセージ】						
自分の暮らす地域社会の変化とグローバル化を結ぶ視点を大切にしてください。						

区 分	専門科目－経営ビジネス科目	担当教員	西手 満昭			
授業科目	国際経済学A					
英 訳	International Economics A					
配当年次	3年次	前期	必選別	選択	単位数	2単位
【授業の概要】 授業目的の達成のため、以下の授業計画に従って、国際ミクロ経済学の基礎を学習する。						
【授業の目的】 国際化とボーダレス化の進展に伴い、国際貿易をはじめ、生産要素や無形のサービスの国際移動と技術移転に関する分析の重要性が再認識されるようになった。本講座では国際経済学のなかでも、貿易についてその理論を学ぶ。						
【到達目標】 貿易理論を学ぶことをとおして、貿易をすることの利益や地域経済統合について理解できることを目標とする。						
【準備学習(予習・復習)】 ・次回の項を読んでおくこと、不明点をチェックしておくこと ・授業の要点をまとめ、与えられた課題をまとめること ・前回の授業内容をよく理解しておくこと、不明点は質問すること ・ノート・配付プリント等を整理し内容を理解すること						
【授業計画】 第 1回 導入 第 2回 世界と日本の貿易 第 3回 貿易が行われる理由 第 4回 比較優位の理論 第 5回 新しい貿易理論 第 6回 貿易政策 第 7回 貿易政策の経済への影響 第 8回 世界貿易体制 第 9回 地域経済統合の実態 第10回 地域経済統合の障害 第11回 地域経済統合の経済的影響 第12回 直接投資の拡大 第13回 直接投資の動機と経済的影響 第14回 直接投資政策 第15回 まとめ						
【教科書】 テキスト：浦田秀次郎・小川栄治・澤田康幸『はじめて学ぶ国際経済』有斐閣アルマ、2011年。						
【参考書】 伊藤元重『ゼミナール国際経済入門』日本経済新聞社。 P.R.クルグマン/M.オズフェルド『国際経済理論と政策 I 国際貿易』新世社。						
【成績評価基準】 期末試験(60%)、レポート(20%)、授業への取り組み(20%)で評価する。						
【メッセージ】 講義の際には、ニュース・トピックスなどの実例も紹介していく予定であるので、日々の出来事（特に国際経済に関するもの）に関心を払い、メディアやインターネットなどから常に情報を得るようにしてください。						

区 分	専門科目－経営ビジネス科目	担当教員	西手 満昭			
授業科目	国際経済学B					
英 訳	International Economics B					
配当年次	3年次	後期	必選別	選択	単位数	2単位
【授業の概要】 授業目的の達成のため、以下の授業計画に従って、国際マクロ経済学の基礎を学習する。						
【授業の目的】 国際化とボーダレス化の進展に伴い、国際貿易をはじめ、生産要素や無形のサービスの国際移動と技術移転に関する分析の重要性が再認識されるようになった。本講座では国際経済学のなかでも、国際マクロ経済についてその理論を学ぶ。						
【到達目標】 国際金融に関わる基礎的な理論を学習することとおして、さまざまな国際金融現象のしくみや意味を理解できることを目標とする。						
【準備学習(予習・復習)】 ・次回の項を読んでおくこと、不明点をチェックしておくこと ・授業の要点をまとめ、与えられた課題をまとめること ・前回の授業内容をよく理解しておくこと、不明点は質問すること ・ノート・配付プリント等を整理し内容を理解すること						
【授業計画】 第 1回 導入 第 2回 国際的な資金の移動 第 3回 国際金融取引とは 第 4回 国際金融取引と国際収支 第 5回 国際金融取引と貯蓄・投資 第 6回 外国為替レートの決定 第 7回 購買力平価と外為レート 第 8回 金利平価と外為レート 第 9回 外為レートの安定 第10回 マクロ経済政策と為替介入 第11回 金融通貨危機とは 第12回 国際通貨制度 第13回 為替レート制度 第14回 通貨統合 第15回 まとめ						
【教科書】 浦田秀次郎・小川栄治・澤田康幸『はじめて学ぶ国際経済』有斐閣アルマ、2011年。						
【参考書】 伊藤元重『ゼミナール国際経済入門』日本経済新聞社。 P.R.クルグマン/M.オプズフェルド『国際経済理論と政策Ⅱ国際マクロ経済学』新世社。						
【成績評価基準】 期末試験(60%)、レポート(20%)、授業への取り組み(20%)で評価する。						
【メッセージ】 講義の際には、ニュース・トピックスなどの実例も紹介していく予定であるので、日々の出来事(特に国際経済に関するもの)に関心を払い、メディアやインターネットなどから常に情報を得るようにしてください。						